

# 酸素・一酸化炭素計 XOC-2200 取扱説明書

保証書付

- このたびは、酸素・一酸化炭素計 XOC-2200をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- この取扱説明書は、必要なときにすぐ取り出して読めるよう、できるだけ身近に大切に保管してください。
- この取扱説明書をよく読んで理解してから正しく使用してください。
- 本取扱説明書の記載内容は、改良等のため予告なく変更する場合があります。
- 包装箱の中に下記のものが入っています。万一製品に破損や欠品がございましたら、お手数ですが、お買い上げ店または弊社までご連絡ください。
  - 酸素・一酸化炭素計 ..... 1
  - 検査成績書 ..... 1
  - 取扱説明書 ..... 1
  - 単4形アルカリ乾電池 ..... 2  
(ガス検知器内包電池含む)
  - 安全ピンアダプタ (C-10) ..... 1  
(ネジ4本含む)

**メモ** 機器本体に内蔵されている電池は、工場での調整に使用したものです。付属の電池に交換してお使いになられることをおすすめします。

## 保証書

製品名	酸素・一酸化炭素計
型式	XOC - 2200
お買い上げ日	年 月 日
お買い上げ店名	
ご愛用者名	
ご住所	〒□□□ - □□□□ 電話番号 ( ) -

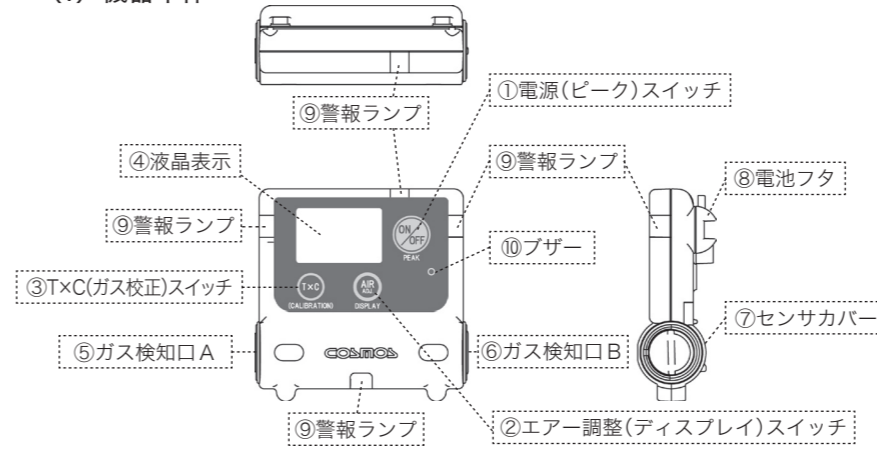
このたびは弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。取扱説明書に従った正常な使用状態で保証期間中に万一異常を生じた場合には、下記の記載内容により保証させていただきます。

- 保証期間  
お買い上げ日より1ヶ月
- 保証範囲  
仕様・取扱説明書に従った正常な使用状態で、製造上の責任による故障または損傷の場合、無償にて修理させていただきます。但し、無償修理は弊社製品または部品の取替えの範囲に限り、警報器本体以外に生じた損害は本保証書に定められた保証の対象ではありません。
- 保証の適用除外 (以下は保証期間中でも有償修理させていただきます。)  
1) 製品の誤用や取扱い不備、使用者の故意・不注意による故障または損傷。  
2) 火災、地震、風水害、雷、異常気象、異常電圧、異常電磁波およびその他の天候、地変による故障または損傷。  
3) お客様自身による修理や改造に起因する事故または損傷。  
4) 消耗品および消耗品を交換されなかったことによる故障または損傷。  
5) その他弊社の責任によらない故障または損傷。  
6) 日本国外での使用による故障または損傷。

新コスモス電機株式会社

## 2. 各部の名称および各種部品の説明

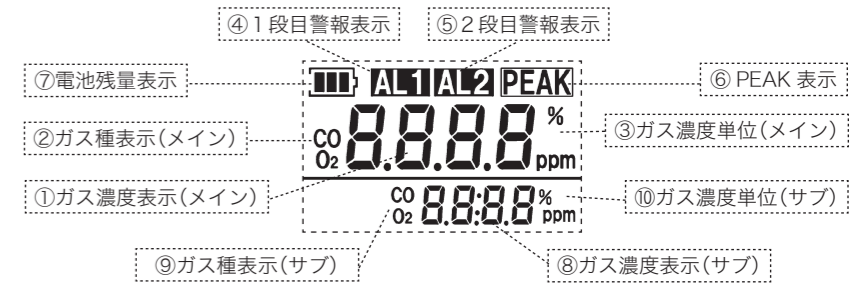
### (1) 機器本体



#### ●機器本体の説明

①電源(ピーク)スイッチ	電源を ON/OFF するときに使用します。または、PEAK ホールド機能のときに使用します。
②エア調整 (ディスプレイ) スイッチ	エア調整 (ゼロ調整、21%調整) をするときに使用します。または、メイン表示切替をするときに使用します。
③T×C (ガス校正) スイッチ	T×C (積算濃度) を表示させるとき、および積算濃度警報を解除させるときに使用します (CO のみ)。または、ガス校正をするときに使用します。 ※「ガス校正」の方法については、ガス校正セット (別売) の使用説明書を参照。
④液晶表示	ガス濃度等の各種表示をおこないます。(P 4 参照)
⑤ガス検知口A	一酸化炭素を検知するところです。
⑥ガス検知口B	酸素を検知するところです。
⑦センサカバー	ガスセンサの収納部です。
⑧電池フタ	電池収容部です。
⑨警報ランプ	警報を発すると点滅します。
⑩ブザー	警報音を発します。

### (2) LCD 表示



#### ●LCD 表示の説明

①ガス濃度表示(メイン)	ガス濃度値(メイン)をデジタル表示します。
②ガス種表示(メイン)	ガス種(メイン)を表示します。(CO, O <sub>2</sub> のいずれかを表示します。)
③ガス濃度単位(メイン)	ガス濃度(メイン)の単位を表示します。
④1 段目警報表示	1 段目警報濃度以上になると点滅表示します。
⑤2 段目警報表示	2 段目警報濃度以上になると点滅表示します。
⑥PEAK表示	ガス濃度がPEAK値を表示しているときに表示します。
⑦電池残量表示	電池の残量を表示します。
⑧ガス濃度表示(サブ)	ガス濃度値(サブ)をデジタル表示します。
⑨ガス種表示(サブ)	ガス種(サブ)を表示します。(CO, O <sub>2</sub> のいずれかを表示します。)
⑩ガス濃度単位(サブ)	ガス濃度(サブ)の単位を表示します。

## 1. はじめに

●本器は酸素および一酸化炭素を検知し、あらかじめ設定されたガス濃度に達するとブザー、ランプおよび振動によって警報を発し、酸素欠乏やガス中毒による事故の未然防止にお役立ていただくためのガス検知器です。

### ●シンボルマークの説明

本文中に危険、警告、注意のマークが出てきます。これらのマークの定義は下記の通りです。

<b>危険</b>	回避しないと、死亡または重傷を招く切迫した危険な状況の発生が予見される内容を示しています。
<b>警告</b>	回避しないと、死亡または重傷を招く可能性がある危険な状況が生じることが予見される内容を示しています。
<b>注意</b>	回避しないと、軽傷を負うかまたは物的障害が発生する危険な状況が生じることが予見される内容を示しています。
<b>メモ</b>	取扱い上のアドバイスを意味します。

### ●防爆関連事項

**注意** 本器は、防爆構造になっています。下記の防爆関連事項の記載内容を守ってご使用ください。

防爆構造: Exib II BT3X  
 定格: DC1.5V 0.18A (LR03)  
 注意事項: 電池交換は非危険場所で行ってください。酸素濃度の測定においては、空気と可燃性ガス又は蒸気および毒性ガスとの混合物以外には使用しないでください。

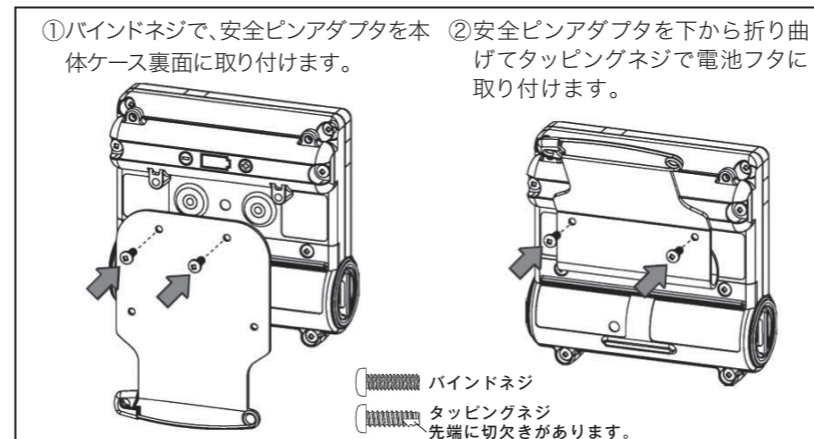
### ●安全にご使用いただくために

安全にご使用いただくために、下記の事項を必ずお守りください。

- 危険**: 本器が警報を発しましたら、直ちにガス中毒防止のための必要なすべての処置をしてください。  
・ガス検知口をふさがないようにして使用してください。
- 危険**: 万一センサからの液漏れが発生した場合 (機械的衝撃等で)  
・衣類等に付着した場合は、早急に水洗いしてください。  
・目、耳等に入った場合は、応急処置として水洗いをし、至急医師の診察をお受けください。
- 警告**: 必ず日常点検および定期点検をおこなってください。
- 注意**: 本器は本質安全防爆構造です。分解、改造、構造および電気回路の変更等はしないでください。防爆性能を損なうおそれがあります。  
・定められた法律・規則に準拠してご使用ください。  
・落としたり、ぶつけたり等の強い機械的ショックおよび強い振動などは避けてください。機器の性能を損なうおそれがあります。  
・高温多湿の場所・低温低湿の場所・車内等での、保管や長期放置をしないでください。  
・使用温度/湿度範囲外での使用および急激な温度/湿度変化は避けてください。機器の性能を損なうおそれがあります。  
・水濡れ、結露は避けてください。  
・本器が結露した場合は、除去して完全に乾燥させた後に点検をしてからご使用ください。  
・測定環境の気圧が標準気圧と異なる場所 (例えば、標高の高い場所など) での測定では、酸素センサは圧力依存を受けるため正確なガス濃度表示を示しません。  
・振動警報は装着箇所により気付きにくい場合がありますので注意してください。  
・電池は単4形アルカリ乾電池 (LR03) を使用してください。  
・他のガス (水素、NOx、SOx、アルコール等) も検知する場合がありますので、測定環境を考慮してご使用ください。

### (3) 安全ピンアダプタ (C-10) の取付方法

安全ピンアダプタを電池フタに取り付けることにより、安全ピンでの装着が可能になります。取付方法は、下記のとおりです。



### (4) オプション品 (別売)

品名	型式	概要
レザーケース	C-11	機器全体を覆い、汚れや小雨の浸入を防止します。(IPX1)
耐熱レザーケース	C-12	機器全体を覆い、汚れや小雨の浸入を防止します。(IPX1) また、耐熱材料を使用していますので一時的な高温の輻射熱等に対し機器の温度上昇を軽減します。(機器の使用温度範囲は変わりません)
クリップ付ストラップ	ST-3	ガス検知器の落下防止用に使用します。
ヘルメットクリップセット	ST-6	ガス検知器を周囲に溝のないタイプのヘルメットに装着することが出来ます。(対応ヘルメット: ミドリ安全製/SC-M シリーズ (MP タイプ)) ※安全ピンアダプタと同時に使用できません。
	ST-6A	ガス検知器を周囲に溝があるタイプのヘルメットに装着することが出来ます。 ※安全ピンアダプタと同時に使用できません。
簡易点検治具	EG-105	警報性能および指示精度の簡易点検に使用します。(点検用ガスは別売)
点検用ガス	—	プッシュ缶型で、簡易点検に使用します。
ガス校正セット	EG-106	指示精度の点検やスパンガス校正に使用します。(校正用ガスは別売)

### (5) 交換部品 (別売)

品名	型式	概要
フィルタエレメント (10枚入り)	FE-116	ガス検知口の防塵・防滴用フィルタ

## 3. 使用方法

### ① 電源を入れる

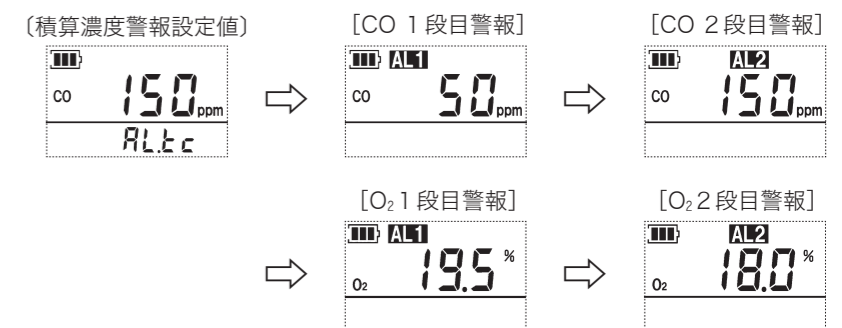
【電源(ピーク)】スイッチを約3秒間押します。このとき「on」とカウントダウン「3→2→1」を表示し、自動的に「ガス警報濃度設定値表示」、「エア調整」をおこなってからガス濃度表示になります。このとき、ブザー音、警報ランプ、振動も動作します。(10秒以内)

**警告** 電源を入れる時は、必ず正常空気中で行ってください。自動的にエア調整を行いますので、ガス雰囲気中で行うと誤ったガス濃度が表示されます。

**メモ** 本機器は、スイッチ操作をおこなうと、LCD表示のライト(バックライト)が約5秒間点灯して自動消灯します。  
・積算濃度(「用語の説明」P14参照)を0ppmにもどすには一旦電源を切ってください。

### ●ガス警報濃度設定値表示

[積算濃度警報値] → [CO 1 段目警報設定値] → [CO 2 段目警報設定値] → [O<sub>2</sub> 1 段目警報設定値] → [O<sub>2</sub> 2 段目警報設定値] の順に表示します。

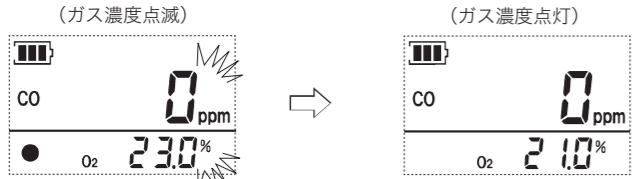


### ●ガス警報濃度設定値 (標準設定値)

検知対象ガス	一酸化炭素 (CO)	酸素 (O <sub>2</sub> )
積算濃度警報	150ppm・h	—
1 段目警報	AL1 50ppm	19.5%
2 段目警報	AL2 150ppm	18.0%

#### ● エアー調整

ガス濃度表示が点滅から“0”または“21.0”の点灯表示に変われば、エアー調整（ゼロ調整、21%調整）が完了です。



エアー調整が完了すると、ガス検知可能です。

メモ 対象ガスがO<sub>2</sub>の場合、エアー調整時に“23.0%”を点滅表示することを確認してください。センサ寿命に近づいてくると“23.0%未満の数値”を表示します。この数値が“21.0%”になるまでに酸素センサを交換してください。

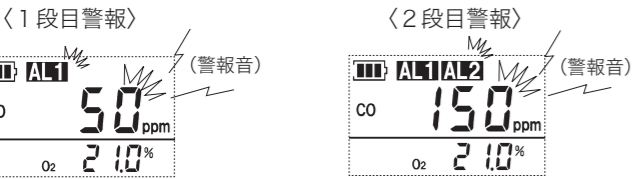
#### ② ガス検知（警報状態）

注意 検知範囲を超えたガス濃度を長く検知すると、正確な検知ができなくなる場合があります。

メモ 同時警報の場合、警報音鳴動の優先順位は①2段階警報②積算濃度警報③1段階警報です。ガス濃度表示がサービスレンジを超えた場合は、サービスレンジ上限値と「OL」を交互表示します。

#### ● 1 段階および 2 段階警報

ガス濃度表示が1段階または2段階警報濃度設定値以上になると、警報音と振動により警報を発し、ガス濃度表示、警報表示および警報ランプが点滅します。



メモ 警報音および警報ランプの点滅周期は1段階より2段階の方が早くなります。警報している間はLCD表示のバックライトが点灯します。

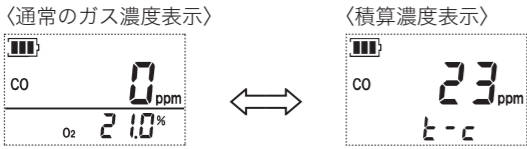
#### ⑤ ピークホールド機能（ピーク値を保持する機能）

【電源（ピーク）】スイッチを短く押すとPEAKが表示します。このPEAK表示をしている間のガス濃度のピーク値を保持します。もう一度、【電源（ピーク）】スイッチを短く押すとピーク値をリセットして瞬時値表示にもどります。

メモ 酸素の場合は下限ピーク値です。

#### ⑥ 積算濃度表示

【T×C】スイッチを押している間だけ“積算濃度 t-c”を表示します。スイッチを離すと通常のガス濃度表示に戻ります。積算濃度は、電源を切るのリセットされ、次に電源を入れたときには、積算は“0ppm”からの再スタートとなります。



#### ⑦ ピーク値メモリ機能(電源ONからOFFまでのピーク値を記憶し確認できる機能)

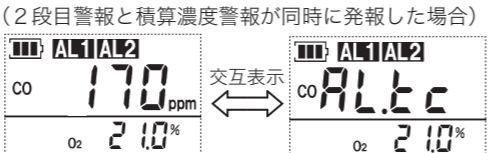
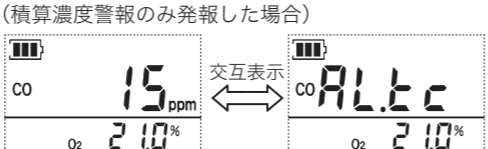
【電源(ピーク)】スイッチと【エアー調整】スイッチを同時に押します。同時押ししている間だけPEAK表示が点滅し、電源ONから現在までのピーク値を表示します。このときサブ表示には、そのピーク値が発生してからの経過時間を表示します。

Diagram showing the peak value memory function with examples of peak detection and time recording.

#### ● 積算濃度警報（COのみ）

積算濃度“T×C”（「用語の説明」P14参照）が警報設定値以上になると、警報音と振動により積算濃度警報を発し、“ガス濃度表示”は“ALtc”との交互表示になり警報ランプが点滅します。

積算濃度警報は【T×C】スイッチを押すと解除されます。但し、“ガス濃度表示”と“ALtc”との交互表示は電源を切るまで継続します。



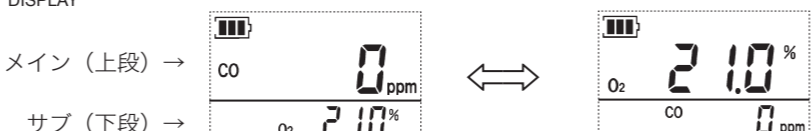
#### ③ エアー調整（ゼロ調整）

【エアー調整】スイッチを約3秒間押します。ブザー音を発し、“Air”とカウントダウン“3→2→1”を表示してエアー調整の動作を始めます。機器の動作は電源投入時の（エアー調整）と同じですので、参照してください。

警告 エアー調整は、必ず正常空気中でおこなってください。ガス雰囲気中でおこなうと、正確なガス検知ができません。1日に1回はエアー調整をおこなってください。また、作業環境(温度、湿度等)が変わると0ppmまたは21.0%がずれる場合がありますのでそのときはエアー調整をおこなってください。

#### ④ 表示切替

【エアー調整（ディスプレイ）】スイッチを押すとメイン（上段）表示とサブ（下段）表示が切替わります。



### 5. 故障とお考えになる前に

Table with 2 columns: 表示 (Display) and 内容 (Content), listing error messages like Err.b, Err.A, Err.r, Err.E, Err.S and their corresponding troubleshooting actions.

上記の表示以外に操作スイッチや表示が正しく動作しない場合には、電池を一旦外して再度電池を入れ直してから、電源を入れて動作を確認してください。それでも復旧できない場合は修理をお申し付けください。

### 6. 点検

本器は精密機器です。製品の性能を維持し、安全を確保していただくためには、下記項目に従って点検を実施してください。また、落下等の衝撃を与えた、水に濡れた等「安全にご使用いただくために」（P2参照）の記載事項に反した場合、および検知範囲外のガス濃度を検知した、使用温湿度範囲外で使用した等「7.仕様」（P13参照）に記載している範囲外で使用した場合には、状況説明を添えて、定期点検をお申し付けください。

### 7. 仕様

Technical specifications table including detection gas, principle, range, accuracy, response time, and other performance metrics.

記載されている仕様は改良等のため予告なく変更する場合があります。\*1 同一測定条件下による。サービスレンジは除く。\*2 90%応答、周囲温度は±0.2℃の状態とする。\*3 環境条件、使用条件、保存期間、電池メーカーなどにより異なる場合があります。

警告 センサの推奨交換周期は、お買い上げ日より1年です。1年を過ぎると、正常な検知ができない場合がありますので、1年を目安に交換してください。センサ推奨交換周期は高濃度ガスの接触がなく、適切な保守を実施した場合の目安であり、これを保証するものではありません。

#### (1) 日常点検

日常点検は、必ず始業前、正常空気中でおこなってください。

- ① 動作の点検 機器の電源を入れたときに、ブザー音、警報ランプ、振動が動作し、液晶表示が正しく表示されていることを確認してください。
② 警報性能の点検 機器をガス検知可能状態にし、警報可能濃度のガスを吹き掛けて警報する（警報音、警報ランプ、振動）ことを確認してください。
③ 電池残量の点検 電池残量があるか確認をおこなってください。電池残量がない場合は、電池交換をおこなってください。

メモ 警報時や低温環境では電池の消耗が早くなります。

#### ④ ガス検知口部の点検

ガス検知口がふさがれていないか、フィルタ汚れ等で目詰まりしていないか確認してください。ガスが十分に通気できるように必要に応じて清掃やフィルタの交換をおこなってください。（「交換部品」P5参照）

#### (2) 定期点検

1ヶ月に1回以上は指示精度の点検をおこなってください。また、6ヶ月に1回以上はガス校正を、1年に1回以上はセンサの交換を含む定期点検をお買い上げ店または弊社にお申し付けいただくことをおすすめします（有料）。なお、簡易的な指示精度の点検は簡易点検治具（別売）にて、ガス校正はガス校正セット（別売）にてお客様自身でおこなうこともできます。（「オプション品」P5参照）

### 8. 用語の説明

- 非危険場所：通常および異常な状態において、可燃性ガスと空気が混合し爆発限界内にある状態の雰囲気中の生成の可能性がないとみなされる場所。
防爆構造：電気機器がその周辺に存在する爆発性雰囲気中の点火源になることがないように、電気機器に適用する技術的手法。
エアー調整：ガス濃度表示を“0ppm”（ゼロ）および21.0%に調整する機能。
サービスレンジ：ガス検知により濃度の指示を示すが、指示精度外となる範囲。
積算濃度：ガス暴露時間（hr）とガス濃度（ppm）の積で表し、本器では1分間平均濃度の積算値を60分で除して算出する。
ガス校正：校正用（標準）ガスの濃度に機器の指示値を合わせることで、スパンガス校正ともいう。
正常空気：標準大気であり、乾燥状態での酸素濃度は20.9%~21.0%。

### 9. 酸素センサについて

この酸素センサは原理上圧力の影響を受けます。標準大気圧（1013hPa）の清浄空気中で機器の電源を入れると指示値は21.0%に自動調整されますが、酸素濃度は変わらず気圧のみ変動しても指示値は圧力に応じて増減します。例えば、この状態の機器をそのまま標高1000m（気圧900hPa）の清浄空気中を持って行った場合には指示値は18.7%となります。逆に、標高1000m（気圧900hPa）の清浄空気中において機器の電源を入れた場合も指示値は21.0%に自動調整されますが、その時の圧力から標準大気圧（1013hPa）時での酸素濃度に補正することができます。圧力補正係数は900/1013=0.89で表され、補正酸素濃度は21.0%×0.89=18.7%となります。

Table showing pressure correction coefficients for various altitudes from 800hPa to 1100hPa.

この取扱説明書を紛失された場合 万一この取扱説明書を紛失された場合は、弊社、最寄りの支社または営業所までご連絡ください。有償にて送付いたします。

●本取扱説明書の記載内容は、改良等のため予告なく変更する場合があります。



〒532-0036 大阪市淀川区三津屋中 2-5-4

https://www.new-cosmos.co.jp/